

第37課 ショートメッセージ 「イエス誕生の約束」

聖書箇所：ルカ1：26－38

暗唱聖句：天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。

主があなたと共におられる。」（ルカ1：28）

アドベント3週目、今週は受胎告知の場面から学びます。先週学んだヨハネの誕生や、聖書日課でも取り上げられたイサクの誕生など、聖書の中には生まれることについての不思議な出来事がいくつか記されています。命を授かるという通常でも神秘的な出来事の上に、人間の理性を超えた神の力が働けば、その示しを受けた者の心は揺らぎます。ザカリア、サラ、そしてマリア。即座には神の言葉を受け入れられなかった姿には人間の限界と現実が表され、それでもお告げ通りの出来事が起こる中に神の絶対的な力が表されています。

受胎告知の出来事について、先週のザカリアへのお告げと比較しながら考えていきたいと思います。まず、聖書が語る人物像について見てみると、ザカリアは祭司職であり、妻エリサベトと共に「神の前に正しい人」「非のうちどころがなかった」といった姿が書かれています。一方のマリアは「ダビデ家のヨセフという人のいいなずけ」と書かれるのみで、これ以上の詳しい説明はありません。マリアについては教派ごとに信仰的な位置付けが変わりまですし、出自や年齢などに対する説も様々あるようです。しかし、「聖書のみ」の信仰に立つ私たちは、聖書がマリアについて詳しく語っていない、ということそのままで受け止めたいと願います。

もちろん、この場面全体を読めば誰もがマリアの信仰深さを感じ、敬意を抱くことと思います。しかし具体的な人物像が説明されないことにより、あくまでマリアは「普通の人」であり、「こんな立派な人だから御子を授かる人として選ばれたのだ」といった安易な因果関係で理解すべきでないことも分かります。神さまは、名もなきごく普通の女性を選ばれたのです。

次に、お告げを受けた状況を比較してみます。ザカリアは神殿で香をたく当番という一生に一度の大舞台。そんな日に人生を変えるお告げを受けることはとてもドラマチックです。先ほどの人物像と合わせれば、特別な人の特別な日に特別な出来事が起きたように感じられます。一方のマリアはお告げを受けた状況について記述がありませんので、普通の人々の普通な日に特別な出来事が起きた、と言えるでしょう。

もしマリアがザカリアのように、人の目から見て優れた人物、立場であり、何か特別な日にお告げを受けていたならば、私たちはこれらの出来事をどう読んでいたでしょうか。神さ

まは特別な人しか選ばない、と理解していたかもしれません。普通の人であったマリアが選ばれたからこそ、人の目から見た偉大さなど、神さまの前に意味がないと知ることができるのです。マリアは御子イエスさまを宿すと共に、神さまの主権、人の想いを超えた選びと御業をその身で表しているのではないのでしょうか。

最後にお告げに対する反応も見たいと思います。聞いたことに対し、ザカリアは高齢を理由に疑問を呈し、マリアは未婚であることを理由に疑問を呈しました。どちらも人間の理性においては自然なことでしょう。同じような反応をした2人ですが、ザカリアは天使によって口が利けなくなり、マリアにはそうしたことは起きませんでした。喜びに溢れたマリアは、46節からの“マリアの賛歌”でその思いを表わし、今も私たちの心を震わせています。ザカリアの身に起きたことは疑問を言ったことへの「罰」などではなく、神の偉大さを表わす術として、ザカリア、マリアそれぞれに主の目にふさわしいことが起きたのです。

このように、受胎告知の出来事は人間が考える「因果」の虚しさを教え、神さまの偉大さを雄弁に語ります。未婚での懐妊という大きな奇跡は時に私たちの心を惑わせますが、神さまが全能のお方であると心から信じるならば、そのままに理解し、信じることができます。マリアが「神にできないことは何一つない」という言葉で心を改めたように、です。

天使が最初に言った「おめでとう」は、「喜べ」とも訳せるそうです。欠けたる者が主に選ばれ、その力を身に受け、与えられた使命に伝えていくこと。これは正に喜びです。そして、お生まれになったイエスさまの導きと執り成しにより、私たちもこの喜び溢れる生き方を知ることが出来ました。2週間後に迎えるクリスマスでは、イエスさまのお誕生と、イエスさまによって私たちが救われたことの喜びを込めつつ、皆様で挨拶を交わし合ひましょう。

● 分かち合い

- ・ マリアのように、自分には相応しくないと思えるような使命や役割を神さまから示されたことはありますか。その時に感じたことや、捧げた祈りがあれば分かち合ひましょう。
- ・ 「神に出来ないことは何一つない」。この言葉を前に、どのような思いが浮かぶでしょうか。心からのアーメンでしょうか、あるいは戸惑いや疑問でしょうか。率直な思いを分かち合ひましょう。

(担当：K.G.)